

第11回 授業研究

「聞くこと、話すこと」

テーマ： She can sing well. (Blue Sky 5 Unit4)  
実践： 新潟県妙高市立妙高小学校 5年生

井熊 ひとみ  
J-SHINE理事  
共愛学園前橋国際大学客員教授  
育英短期大学非常勤講師  
群馬県伊勢崎市英語教育アドバイザー

## 第5学年 外国語科学習指導案

令和4年9月27日(火) 第5校時

授業者 西巻 愛海

ALT Rader Michael

1 単元名 「She can sing well.」(Blue Sky5 Unit4)

### 2 単元の目標

- ・できることやできないことを聞き取ったり、話したりすることができる。【知識・技能】
- ・できることやできないことについて、目的に応じて必要な情報を聞き取ったり、相手に伝えるように話したり、やり取りしたりする。【思考・判断・表現】
- ・既習の英語表現を用いて、相手意識をもち、自分の言いたいことを伝える努力をしたり、相手の話を理解しようと努めたりする。【主体的に学習に取り組む態度】

### 3 児童の実態

男子7名、女子7名、計14名の学級である。どの教科においても学習意欲をもち、落ち着いた様子で学習しているが、人前で発表することや反応を示すことに消極的である。外国語の学習でも、英語を使って伝える自己表現活動に苦手意識をもっている様子が見られる。クリアボイスで相手を意識した伝え方にも課題がある。外国語活動を通して、コミュニケーションのポイントを押さえながら相手意識をもたせ、関わりを多くする活動を仕組むことで主体的なコミュニケーションを促していきたい。

3観点の目標を5領域の中でどのように評価するのか

人前での発表  
自己表現への苦手意識  
相手を意識した伝え方は  
どのように授業に反映させることが可能か

#### 4 指導計画（全7時間）

- 1時 できることを表す表現を聞いたり言ったりする。
- 2時 できないことを表す表現を聞いたり言ったりする。
- 3時 野菜や動物の What am I?クイズを通して、できることやできないこと、特徴などを尋ねる①
- 4時 野菜や動物の What am I?クイズを通して、できることやできないこと、特徴などを尋ねる②
- 5時 有名人やキャラクターを用いたクイズを通して、できることやできないこと、特徴などを尋ねたり、答えたりする。
- 6時 妙高小学校の先生方にできることやできないこと、好きなものなど、インタビューしたことをもとにクイズの準備をする。
- 7時 妙高小学校の先生の Who am I?クイズを通して、できることやできないことなどを尋ねたり、答えたりする。【本時】

##### <主な言語材料>

- ・動作 (swim dance cook ski skate run sing speak ride play fly jump)
- ・目的語となるスポーツ、楽器、乗り物など                      ・副詞 (well fast)
- ・形容詞 (tall small long short)

- |  |                         |
|--|-------------------------|
| ・動物  | ・ can can' t            |
| ・ she he   |                         |
| ・ Can you ~? Can he ~? Can she ~?/ Yes, ○○ can. No, ○○ can' t. |                         |
| ・ But  | ・ Who am I?             |
| ・ Are you ~?   | ・ Do you like (have) ~? |

概要 妙高市では、5年生の授業を提案します。本時のゴールを「妙高小学校の先生のことをもっとよく知るために、『Who am I?クイズ』を通して、できることやできないこと、好きなものなどについてやり取りすることができる」と設定しました。そして、単元の指導計画や本時の展開における活動を、バックワードで、かつ、スモールステップで配列し、児童が無理なくゴールに到達できるように工夫して指導しました。児童が自信をもって英語で表現しようとするための指導の在り方についてご協議いただき、多数のご意見や代案等をいただきますようお願いいたします。☺

●指導計画は、7時間単元の無理のない進行  
⇒単に楽しい、面白いだけではない**学習内容の資質と能力の向上を目指せる設定**が必要

●児童のゴールの可視化を行い納得感を得られるかが導入時に必要  
・児童が「自分事」としてとらえる課題意識はどうやって作るか  
⇒ テキストのふりかえりには毎単元に必ずおぼえた英語を**どんな場面で使いたいか**という項目がある

●児童は学びのゴールに向けて何を得たかを実感できることが必要  
・**児童と先生のゴールは一致**しているか  
⇒ ルーブリックの共創と共有

●中間指導においてのふりかえりで、**自身の到達を自己調整**できるように支援が必要  
・自分が何ができて、何ががんばろうと思えるところかがわかる。

#### 4 指導計画（全7時間）

- 1時 できることを表す表現を聞いたり言ったりする。
- 2時 できないことを表す表現を聞いたり言ったりする。
- 3時 野菜や動物の What am I?クイズを通して、できることやできないこと、特徴などを尋ねる①
- 4時 野菜や動物の What am I?クイズを通して、できることやできないこと、特徴などを尋ねる②
- 5時 有名人やキャラクターを用いたクイズを通して、できることやできないこと、特徴などを尋ねたり、答えたりする。
- 6時 妙高小学校の先生方にできることやできないこと、好きなものなど、インタビューしたことをもとにクイズの準備をする。
- 7時 妙高小学校の先生の Who am I?クイズを通して、できることやできないことなどを尋ねたり、答えたりする。【本時】

#### 5 本時の展開（7/7時間）

##### （1）ねらい

妙高小学校の先生のことをもっとよく知るために「Who am I?クイズ」を通して、**できること**  
**やできないこと、好きなものなどについてやり取りすることができる。**

##### （2）手立て

- ・自信をもって表現できるように、単元を通じて繰り返し練習を積み重ねる。
- ・相手意識をもってやり取りができるように、クイズ形式で会話をする。
- ・子どもたちが関心をもって積極的にコミュニケーションが図れるように、身近な妙高小の先生方をクイズの題材にする。
- ・子ども同士の会話が活発になるように、本単元の「Can you〜?」だけでなく、これまでに学習してきた「Are you〜?」「Do you〜?」の表現を紹介し、子どもたちが必要に応じて使えるようにする。
- ・本時の Activity での会話が不安にならないよう、授業者と ALT がモデルとなってやり方を提示してから活動を行う。

#### 1時間目～4時間目

できること、できないことの表現や  
**既習事項をもりこんで「やりとり」**を行う活動

#### 5時間目

自分と相手以外の人、キャラクターが登場して**3人称の表現の仕方を学ぶ活動**

#### 6時間目

妙高小の先生達にインタビューしてクイズを準備する。

#### 7時間目

妙高小の先生達をモチーフにして、クイズをしながら表現する



繰り返しの練習⇒スパイラルに学ぶ  
相手意識をもって質問⇒会話  
身近な存在（先生）⇒積極的な態度  
モデルの提示・ていねいな指導  
⇒見て学ぶ、真似て学ぶ、考えて表現  
安心し積極的に授業に参加できる環境



## Warm-up

●Are you rich ?

●Do you like "Natto ? "

●Can you play the piano?



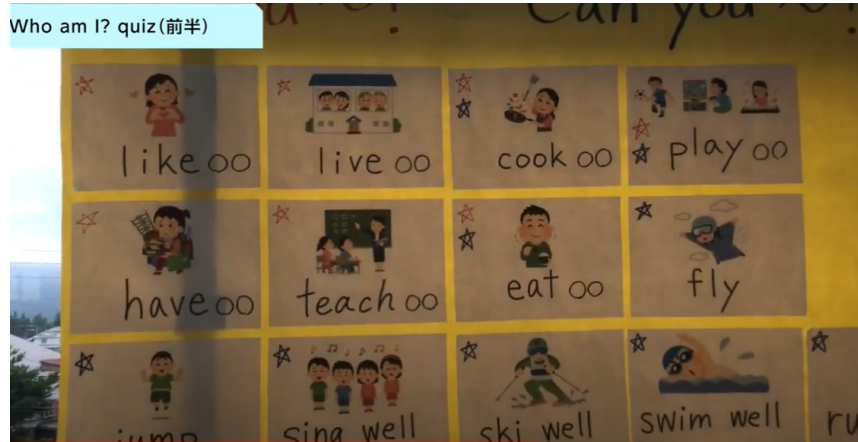
既習事項の確認 ⇒ デモ ⇒ 生徒同士のやりとり

## Goal /Small talk



「先生達のことをもっと知るために」  
⇒児童は何を表現したらいいかのゴール⇒デモンストレーション（モデルの提示）⇒先生と生徒のやりとりへ

## Activity 1 ⇒ 中間指導 ⇒ Activity2



手がかりとなるヒントの掲示 ⇒ 互いに支援しあいながら進める活動

ふりかえりの活動で子どもたちは何を学べたか  
先生の示したゴールへ子どもたち自身も到達を実感できたか

自分があきらめずに挑戦したことは、とても重要なポイントです。  
もし、できなかった事がふりかえられて次にどうしたらいいかをいっしょに  
考えていくことが学習改善になります。

# 子どもたちから引き出したい気持ち・動機づけ・思い

## 言語活動の「目的」「場面」「状況」の設定がポイント

目的はどうやってつくるのか？

できること・できないことを伝える目的は？

場面はどうやってつくるのか？

相手意識の大切さ 誰に？ 何を？

状況はどうやってつくるのか？

児童にとって真実味のある状況とは？

妙高小の先生達のことを**もっと**知ってもらいたい（知ってみよう）

それには何を情報として得たらいいだろう

どんなたずね方ができるだろう

それを他の人達に知ってもらうにはどうしたらいいだろう



子どもたちとのゴールの共有をする

手立てが決まる（活動）





# 妙高小のすてきな先生・おもしろい先生を紹介しよう。

わかった！

できた！

どうきけばいい？

できるかな・・・

どう思うかなあ

相手に伝わる？

何をきいてみようかな

聞いてみたい事

誰にしようかな





ゴールの設定

先生がどのようにこの単元のゴールを設定したいか  
評価基準をどのように設定するか

ゴールの共有

そのゴールを児童と共有できているか ⇒ 双方向での共有が目的意識を明確にできる

動機づけ

何ができるようになるのか ⇒ 子どもたちの思考を促し、引き出す場面設定

導入

どんなモデルを見せたらよいか ⇒ 本物の気持ちをつくりだすことの重要性

活動

練習をしよう ⇒ そこに子どもたちの「本当の気持ち」があるか

活動

共有したゴールに向けてどのような変化、成果があったか



ふりかえりを通して子どもたちが得られるものは、学び続けるための自信

**妙高市立妙高小学校  
西巻先生、そして  
5年生の児童の皆さん  
楽しい授業をありがとうございました。**

**これからも元気で笑顔あふれる  
英語学習を進めてください！**

**井熊ひとみ**

